

女性のために開発された自転車(20世紀初頭)



1880年代に誰でも簡単に乗ることができる自転車の開発が始まると、女性たちも自転車の魅力に惹かれて行きました。1882年にイギリスでレディサイクリスト協会が設立されるなど、女性サイクリストの増加とともにその需要が1890年代初頭における欧米の自転車産業の発展を支える柱の1つにもなりました。

当時、女性たちが自転車に乗るために幅広のパンツで裾が膝下であり、裾口はギャザーを寄せて絞っているニッカーボッカーと呼ばれる服装が流行しました。それとは反対に1890年代を代表する服装である肩と袖が広く、ウエストは細くくびれ、裾に向かってゆったりと広がるようなスカートを着ても自転車に乗ることができるように、自転車への工夫も施されていきました。

足を上に挙げて自転車をまたがなくても乗れるように車体をカーブさせたり、スカートが車輪に巻き込まれるのを防ぐためのネットを後輪に張ったりしました。また、スカートがチェーンに巻き込まれるのを防ぐために、チェーンの代わりにシャフトドライブ式を採用した自転車もありました。

こうして、20世紀に入ると軽くてどのような服装でも乗りやすい自転車が次々と開発され、欧米の女性たちは積極的に自転車を利用していくようになりました。



19世紀末のファッションを身にまとった女性

肩幅は広く、ウエストは細く、スカートはロングという服装は、砂時計シルエットとも呼ばれ、世紀末の芸術様式であるアール・ヌーヴォーを反映したものである



ニッカーボッカー姿の女性のポスター
女性が自転車にまたいで乗るために幅広のパンツで裾が膝下までの服装が流行した



軽いことをアピールしたポスター
フランスの自転車会社のポスターで、流行のファッションを身につけた女性が足場の悪いところでも片手で持てるほど軽いことをアピールしている